

緑の相談所だより

編集・発行

財団法人 旭川市公園緑地協会 旭川市緑の相談所

No.95

発行日 平成17年 8月 1日

講習会のご案内

楽しい菊の育て方

と き : 8月21日 日曜日 午後 1時30分 ~ 3時30分

講 師 : 旭光菊花会 小 林 洋 一 さん

定 員 : 50名



花・庭木の診断と手入れ

と き : 8月28日 日曜日 午後 1時30分 ~ 3時30分

講 師 : フラワーマスター 佐 藤 文 男 さん

定 員 : 50名

ミニ盆栽の育て方

と き : 9月11日 日曜日 午後 1時30分 ~ 3時30分

講 師 : ミニ盆栽愛好会 長 谷 川 八 郎 さん

定 員 : 50名



秋植え球根の植え付け・草花鉢上げ

と き : 9月25日 日曜日 午後 1時30分 ~ 3時30分

講 師 : 旭川市緑の相談所 相談員 伊 藤 征 夫

定 員 : 50名

電話 (0166) 65-5553

旭川市緑の相談所 まで。

定員になりしだい締め切らせていただきますので
お早めにお申し込みください。
植物の育て方などにつきましてはお気軽にご相談ください。

おしらせ!!

緑のセンターまつり2005開催!!

と き 平成17年8月7日(日)
10:00 ~ 16:00

ところ 旭川市 神楽岡公園内 緑のセンター

☆たくさんの楽しいイベントを企画していますので、是非
お越しください。皆様のご来場をお待ちしています。

エンジェルストランペット

ナス科 キダチチョウセンアサガオ（ブルグマンシア）属 *Datura arborea* L.

世界中の熱帯、亜熱帯に分布するが、一部の温帯にも生え、約24の種類があります。花が小型の上向きに咲く一年草と花が大型で垂れ下がって咲く多年草の2種に大別され、それぞれチョウセンアサガオ（ダツラ）属、キダチチョウセンアサガオ（ブルグマンシア）属とされています。

日本では薬用植物として導入されたもので、華岡青州が手術に用いた麻酔薬の話が有名ですが、この種は前者の一年草です。

特 性

和名をキダチチョウセンアサガオ、英名がエンジェルストランペットです。ペルーのやや高所に自生して高さが約3mにもなり、花は筒状または長いラッパのような形でほぼ垂直に下がります。

花色は白、黄、橙、赤、紫等たくさんあり、生育旺盛で栽培もやさしいことから最近人気があります。（このキダチチョウセンアサガオはダツラとして出回っていますが、両種は別属です。）



植え場所と管理

休眠期を除き、室内外とともに日当たりの良い場所で育てることです。品種によっては直射日光を苦手とするものもあります。水やりは4月からの生育期間中はたくさん必要ですが、越冬期は控えて根腐れを防ぎます。また、生育期間は肥料切れさせないように置肥や液肥を与えます。

病害はほとんど発生しませんが、害虫はアブラムシ、ハダニ、カイガラムシ、オンシツコナジラミ等がよく発生します。早期発見。早期防除が大切です。

展示室の植物たち シリーズ「3」

ストレリチア レギナエ

バショウ科 ストレリチア属 *Strelitia Reginae* Ait.

【 8月の温室は熱帯植物の花が咲き誇ります！ 】



4種類が南アフリカに分布しています。茎のない多年草で高さが1m前後になり、地際から何本もの葉を出します。花は長い花茎が伸びた先に長さ20cm位の苞が横につき、中から数個の花が立ってくるが、外側は橙黄色、内側は紫青色で鳥のトサカに似た感じがします。

支柱を必要としない特徴を生かして世界の暖地では古くから切花栽培が行われ、ハワイやフロリダ等の亜熱帯では庭にも植えられています。

一般的には早春から夏にかけて花が咲き誇りますが、当温室内では8月になって咲き始めました。

8月の園芸作業

1 鉢花(草花)類

ペゴニア等開花期間の長い草花は、おおよそ草丈3分の1ぐらい残して節の上で切り戻しをします。また、こまめに花柄摘みや枯れた葉っぱ等を取りましょう。病虫害を防除する為に、まず植物を健康に育てる事が大切です。その為には花後に、リン、カリ分が多く含んだ肥料を与えましょう。水やりは早朝に済ませるようにし、乾燥が激しい時は夕方にも水やりをしましょう。薬かけも同様に昼間は避けましょう。夏越ししたシクラメンは8月末から新しい用土で一回り大きな鉢に植え替えましょう。

2 庭木類

来年の花芽ができている花木類は剪定しない事。また花芽形成の時期なのでチッソ肥料は与えないよう注意しましょう。耐寒性の弱いツツジ類、西洋シャクナゲ、ボタン、枝枯れの被害が多かったアカマツ、クロマツ等にはカリ肥料を与えましょう。マツ類、特にイチイ(オンコ)が徐々に黄変衰弱し、ひどい時には落葉や枝枯れのような症状が出た場合の多くの原因がナガチャコガネの幼虫が根を侵食している為であるといえますので、地中に殺虫剤を散布しておきましょう。

3 洋ラン類

シンビジウムは上旬には置肥を止め、週1回の液肥に切り替え、水やりと日光によく当てましょう。デンドロビウムは昼夜の温度差が大きくなるにつれて成長が鈍くなりそれに伴ってバルブが太ってくると、今年伸びたバルブの先端に小さな葉が一枚付く。これを『止め葉』と呼び、この時から肥料をいっさい与えず水やりも控えましょう。カトレア類でシースが出掛かった株は追肥を中止しましょう。8月も末になったら最低気温に注意し、戸外で管理している場合、カトレアは12℃、コチョウランは18℃を目安に入室しましょう。

9月の園芸作業

1 鉢花(草花)類

戸外に出したハイビスカス等、耐寒性の無い鉢物は9月中旬に。低温にあわせた方がよいクンシランは10月上旬(霜に注意)入室しましょう。インパチェンス、アキランサス、コリウス、ガザニア等花壇の草花の一部を鉢上げしましょう。カンナ、アマリリスは霜の来る前に掘り上げ、無暖房の室内等で育てましょう。ユリ類、スイセン類、クロッカス、シラー等は中旬から下旬に定植しましょう。ポインセチア、クリスマスカクタス(シャコバサボテン)、カランコエは短日処理をして花を咲かせましょう。(短日処理→夕方5時から翌朝8時までダンボール等で覆う事)

2 庭木類

イチイ(オンコ)等のマツ類はカイガラムシが付きやすくなりますので、生育旺盛な株は枝すかしと小枝すかし剪定を行いましょう。なお、イチイ、マツ類の剪定は9月までに終わらせましょう。ボタンは気温が下がってくると地際近くから新根が出始めますので、リン、カリ肥料を施肥し、また自根を出させる為に5~7cmぐらい土寄せを行いましょう。8月に続いて生長を止め耐寒性をつける為にカリ肥料を上旬、中旬、下旬と3回程度施肥しましょう。

3 洋ラン類

シンビジウムはバルブの充実期、最低気温が10℃程度なら戸外に置きましょう。デンドロビウム(ノビル系)も同様に管理しましょう。ただし、朝の最低気温が7~8℃になったら入室し、暖房の無い明るい窓辺で管理しましょう。(夜間10℃、昼間20℃が適温)施肥はしない。カトレアは中旬には入室し、明るい窓辺におき昼間20℃~25℃、夜間15~18℃を目標に管理しましょう。コチョウランは8月下旬には入室し、最低温度18℃を保つようにし、花芽形成を促す為にリンカリ肥料(0-6-4)と洋ラン用肥料(6-6-6)を交互に与えましょう。

秋植え球根の植え付けが 近づいてきましたっ！

春の花壇を賑わしてくれたチューリップ、ムスカリ、スイセン等の花達はもう葉が枯れて掘り上げ、物置等の風通しの良い場所に保存されていることと思います。そして、これから9月中旬～10月にかけてその植え付け時期を迎えます。今号はその作業の概要について述べたいと思います。（決して球根を春まで持ち越してはいけません！）

1 植え付け時期

植え付け時期	種	類
9月中旬～ 9月下旬	スイセン、コルチカム、クロッカス、シラー、早咲きのユリ	
9月中旬～ 10月	チューリップ、ヒヤシンス、ムスカリ、スノードロップ、ユリ クロユリ、アリウム・ギガンチュウム、ダッチアイリス	

2 球根の選び方

- ・大きくて、重く張りのあるもので表面に傷や病気、カビの無いもの。
- ・大きさを揃えると花の大きさ等が揃って咲かせることができます。

3 植え場所

- ・日当たりがよく水はけの良い所、水はけの悪い場合は床を盛り上げて植える。

4 植え床づくり

- ・施肥量（1平方メートルあたり）
 - ・苦土石灰一掴み + 完熟堆肥、腐葉土、ピートモス等を 5 k g
 - ・暖効性肥料（マグアンプ等）を二掴み + 油粕、骨粉を同量に混ぜたものを両手で1～2杯
- ・耕起：上記肥料を全面散布し、20～30cmの深さで耕起し、床をつくる。

5 球根を植える深さと間隔

- ・深 さ：球根の高さの3倍
- ・間 隔：球根と球根の間に2～3個入るくらい
- ・球根の向き：植え付ける時に、球根の形状の向き（例えば球根の平らな面等）をそろえると葉の向きがそろう。

* ユリは茎が枯れるのが遅いので、掘り上げたら直ちに植え付けることが大切です。（禁乾燥！）